

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2026.5.4-10

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

LTG ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1〜3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

▶ 4日 月曜

ルツ



2:8 ポアズはルツに言った。「娘さん、よく聞きなさい。ほかの畑に落ち穂を拾いに行つてはいけません。ここから移つてもいけません。私のところの若い女たちのそばを離れず、ここにいなさい。

2:9 刈り取つている畑を見つければ、彼女たちの後について行きなさい。私は若い者たちに、あなたの邪魔をしてはならない、と命じておきました。喉が渇いたら、水がめのところに行つて、若い者たちが汲んだ水を飲みなさい。」

2:10 彼女は顔を伏せ、地面にひれ伏して彼に言った。「どうして私に親切にし、氣遣つてくださるのですか。私はよそ者ですのに。」

2:11 ポアズは答えた。「あなたの夫が亡くなつてから、あなたが姑にしたこと、それに自分の父母や生まれ故郷を離れて、これまで知らなかった民のところに来たことについて、私は詳しく話を聞いています。

2:12 【主】があなたのしたことにより報いてくださるよう。あなたがその翼の下に身を避けようとして来たイスラエルの神、【主】から、豊かな報いがあるように。」

2:13 彼女は言った。「ご主人様、私はあなたのご好意を得たいと存じます。あなたは私を慰め、このはしための心に語りかけてくださいました。私はあなたのはしための一人にも及びませんのに。」

2:14 食事の時、ポアズはルツに言った。「ここに来て、このパンを食べ、あなたのパン切れを酢に浸しなさい。」彼女が刈る人たちのそばに座つたので、彼は炒り麦を彼女に取つてやった。彼女はそれを食べ、十分食べて、

余りを残しておいた。

2:15 彼女が落ち穂を拾い集めようとして立ち上がると、ポアズは若い者たちに命じた。「彼女には束の間でも落ち穂を拾い集めさせなさい。彼女にみじめな思いをさせてはならない。

2:16 それだけでなく、彼女のために束からわざと穂を抜き落として、拾い集めさせなさい。彼女を叱つてはいけません。」

ポアズの親切はルツを助けただけでなく、後にルツをめぐり、さらに救い主の系図に入ることに役立ちました。彼はその時代だけでなく、永遠にその名が記されて賞賛されることとなったのです。何よりも救い主イエス様の大きなみわざに参加することとなりました。

「主から、豊かな報いがあるように。」というポアズのことばから、彼はその信仰のゆえに親切にしたことがわかります。その信仰が彼に栄誉を与えたのです。

信仰によって、主が何を求めておられ、何を喜んでくださるのかを考えつつ、みこころのままに親切を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 火曜

ルツ



2:17 こうして、ルツは夕方まで畑で落ち穂を拾い集めた。集めたものを打つと、大麦一エバほどであった。

2:18 彼女はそれを背負って町に行き、集めたものを姑に見せた。また、先に十分に食べたうえで残しておいたものを取り出して、姑に渡した。

2:19 姑は彼女に言った。「今日、どこで落ち穂を拾い集めたのですか。どこで働いたのですか。あなたに目を留めてくださった方に祝福がありますように。」彼女は姑に、だれのところで働いてきたかを告げた。「今日、私はボアズという名の人のところで働きました。」

2:20 ナオミは嫁に言った。「生きている者にも、死んだ者にも、御恵みを惜しまない

【主】が、その方を祝福されますように。」ナオミは、また言った。「その方は私たちの近親の者で、しかも、買戻しの権利のある親類の一人です。」

2:21 モアブの女ルツは言った。「その方はまた、『私のところの刈り入れが全部終わるまで、うちの若い者たちのそばについていなさい』と言われました。」

2:22 ナオミは嫁のルツに言った。「娘よ、それは良かった。あの方のところの若い女たちと一緒に畑に出られるのですから。ほかの畑でいじめられなくてすみます。」

2:23 それで、ルツはボアズのところの若い女たちから離れないで、大麦の刈り入れと小麦の刈り入れが終わるまで落ち穂を拾い集めた。こうして、彼女は姑と暮らした。

イスラエルでは破産して財産が人手に渡ってしまっても、特定の親戚が希望すれば、その財産を買戻すことができました。ボアズがナオミの親戚で、その買戻しの権利があるということです。これは偶然ではなく、主の導きによって起こったことです。

ナオミの信仰と嫁ルツへの愛情、その信仰を受け継いだルツの献身と働き、さらにはボアズの信仰と親切に、主がすばらしい恵みで答えてくださったのです。

何があってもそのような主に信頼して、信仰と愛情と献身と親切によって生きましょう。たとえ落ちぶれたように見られる状況であっても、主に希望を見出しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 水曜

ルツ



3:1 姑のナオミは彼女に言った。「娘よ。あなたが幸せになるために、身の落ち着き方を私が探してあげなければなりません。」

3:2 あなたと一緒にいた若い女たちの主人ボアズは、私たちの親戚ではありませんか。ちょうど今夜、あの方は打ち場で大麦をふるい分けようとしています。」

3:3 あなたはからだを洗って油を塗り、晴れ着をまとして打ち場の下って行きなさい。けれども、あの方が食べたり飲んだりし終わるまでは、気づかれないようにしなさい。」

3:4 あの方が寝るとき、その場所を見届け、後で入って行ってその足もとをまくり、そこで寝なさい。あの方はあなたがすべきことを教えてくれるでしょう。」

3:5 ルツは姑に言った。「おっしゃることは、みないたします。」

3:6 こうして、彼女は打ち場の下って行き、姑が命じたことをすべて行った。

3:7 ボアズは食べたり飲んだりして、気分が良くなり、積み重ねてある麦の傍らに行って寝た。彼女はこっそりと行って、ボアズの足もとをまくり、そこに寝た。

3:8 夜中になって、その人は驚いて起き直った。見ると、一人の女の人が自分の足もとに寝ていた。

3:9 彼は言った。「あなたはだれだ。」彼女は言った。「私はあなたのはしためのルツです。あなたの覆いを、あなたのはしための上に広げてください。あなたは買い戻しの権利のある親類です。」

3:10 ボアズは言った。「娘さん、【主】があなたを祝福されるように。あなたが示した、

今回の誠実さは、先の誠実さにまさっています。あなたは、貧しい者でも富んだ者でも、若い男の後は追いかけてませんでした。

3:11 娘さん、もう恐れる必要はありません。あなたが言うことはすべてしてあげましょう。この町の人々はみな、あなたがしつかりした女であることを知っています。

3:12 とここで、確かに私は買い戻しの権利のある親類ですが、私よりももっと近い、買い戻しの権利のある親類がいます。

3:13 今夜はここで過ごしなさい。朝になって、もしその人があなたに親類の役目を果たすなら、それでよいでしょう。その人に親類の役目を果たしてもらいましょう。もし、その人が親類の役目を果たすことを望まないなら、私があなたを買い戻します。

【主】は生きておられます。さあ、朝までお休みなさい。」

3:14 ルツは朝まで彼の足もとで寝て、だれかれの見分けがつかないうちに起きた。彼は「打ち場に彼女が来たことが知られてはならない」と思い、

3:15 「あなたが着ている上着を持って、それをしっかりとつかんでください」と言った。彼女がそれをしっかりとつかむと、彼は大麦六杯を量り、それを彼女に背負わせた。それから、彼は町へ行った。

3:16 彼女が姑のところに行くと、姑は尋ねた。「娘よ、どうでしたか。」ルツは、その人が自分にしてくれたことをすべて姑に告げて、

3:17 こう言った。「あなたの姑のところの手ぶらで帰ってはならないと言って、あの方はこの大麦六杯を下さいました。」

3:18 姑は言った。「娘よ、このことがどう

取まるか分かるまで待っていなさい。あの方は、今日このことを決めてしまわなければ落ち着かないでしょうから。」

当時奴隷は、主人が休むときにはその足元に寝て、夜中も仕えました。自分の毛布はなく、寒いときは主人の掛け物の端を使うことが許されました。ですからルツの行為はまさに奴隷としてのものであり、それは全くの謙遜と従順だったのです。またルツは「若い」者と結婚する年頃でしたが、彼女は一家の再建のため、ボアズとの結婚を求めました。これは献身の表れです。

ボアズはその心に打たれ、「あなたが言うことはすべてしてあげましょう。」と約束するほどでした。また感情で行動するのではなく、「もっと近い、買い戻しの権利」のある人を配慮する社会性も持っていました。このように主のみわざがなる時は、愛の主になさわしく、麗しいできごとに満たされるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 木曜

ルツ



私は買い戻すことができません。」

4:1 一方、ボアズは門のところへ上って行って、そこに座った。すると、ちょうど、ボアズが言ったあの買い戻しの権利のある親類が通りかかった。ボアズは彼に言った。

「どうぞこちらに来て、ここにお座りください。」彼はそこに来て座った。

4:2 ボアズは町の長老十人を招いて、「ここにお座りください」と言ったので、彼らも座った。

4:3 ボアズは、その買い戻しの権利のある親類に言った。「モアブの野から帰って来たナオミは、私たちの身内のエリメレクの畑を売ることにしています。

4:4 私はそれをあなたの耳に入れ、ここに座っている人たちと私の民の長老たちの前で、それを買ってくださいと言おうと思ったのです。もし、あなたがそれを買い戻すつもりなら、それを買い戻してください。けれども、もし、それを買い戻さないのなら、私にそう言って知らせてください。あなたを差し置いてそれを買い戻す人はいません。私はあなたの次です。」彼は言った。「私が買い戻しましょう。」

4:5 ボアズは言った。「あなたがナオミの手からその畑を買い受けるときには、死んだ人の名を相続地に存続させるために、死んだ人の妻であったモアブの女ルツも引き受けなければなりません。」

4:6 するとその買い戻しの権利のある親類は言った。「私には、その土地を自分のために買い戻すことはできません。自分自身の相続地を損なうことになるといけませんから。私に代わって、あなたが買い戻してください。」

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 金曜

ルツ



4:7 昔イスラエルでは、買い戻しや権利の譲渡をする場合、すべての取り引きを有効にするために、一方が自分の履き物を脱いで、それを相手に渡す習慣があった。これがイスラエルにおける認証の方法であった。

4:8 それで、この買い戻しの権利のある親類はボアズに、「あなたがお買いなさい」と言って、自分の履き物を脱いだ。

4:9 ボアズは、長老たちとすべての民に言った。「あなたがたは、今日、私がナオミの手から、エリメレクのものすべて、キルヨンとマフロンのものすべてを買い取ったことの証人です。」

4:10 また、死んだ人の名を相続地に存続させるために、私は、マフロンの妻であったモアブの女儿ツも買って、私の妻としました。死んだ人の名を、その身内の者たちの間から、またその町の門から絶えさせないためです。今日、あなたがたはその証人です。」

4:11 門にいたすべての民と長老たちは言った。「私たちは証人です。どうか、【主】が、あなたの家に嫁ぐ人を、イスラエルの家を建てたらケルとレアの二人のようにされますように。また、あなたがエフラテで力ある働きをし、ベツレヘムで名を打ち立てますように。」

4:12 どうか、【主】がこの娘を通してあなたに授ける子孫によって、タマルがユダに産んだベレツの家のように、あなたの家になりますように。」

犠牲をいとわないボアズの買戻しによって、ナオミの家は回復し、ルツは人生を取り戻しました。これはイエス様の贖いのひながたです。イエス様が私たちの人生を、そしてそれだけでなく、命を買い戻してくださったのです。

主に感謝しましょう。また、主のようそしてこのボアズのように、自分の利益を求めない愛によって、誰かの人生回復のお手伝いをさせていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:13 ボアズはルツを迎え、彼女は彼の妻となった。ボアズは彼女のところに入り、

【主】はルツを身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。

4:14 女たちはナオミに言った。「【主】がほめたえられますように。主は、今日あなたに、買い戻しの権利のある者が途絶えないようにされました。その子の名がイスラエルで打ち立てられますように。」

4:15 その子はあなたを元気づけ、老後のあなたを養うでしょう。あなたを愛するあなたの嫁、七人の息子にもまさる嫁が、その子を産んだのですから。」

4:16 ナオミはその子を取り、胸に抱いて、養い育てた。

4:17 近所の女たちは、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名をつけた。彼女たちはその名をオベテと呼んだ。オベテは、ダビデの父であるエッサイの父となった。

4:18 これはペレツの系図である。ペレツはヘツロンを生み、

4:19 ヘツロンはラムを生み、ラムはアミナダブを生み、

4:20 アミナダブはナフシオンを生み、ナフシオンはサルマを生み、

4:21 サルマはボアズを生み、ボアズはオベテを生み、

4:22 オベテはエッサイを生み、エッサイはダビデを生んだ。

ナオミの信仰と、ルツの信仰継承、そしてボアズの誠実な信仰によって、オベテが生まれました。彼はダビデ王の祖父であり、イエス様の系図にも記されるのです。

信仰は美しい人生だけでなく、美しい歴史・家系を作ります。そこには過去の不幸の回復があるのです。彼らのような信仰の歩みをして、そのような美しい歴史を作り出す者とならせていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





1:1 神のみこころによりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、

1:2 コリントにある神の教会へ。すなわち、いたるところで私たちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人とともに、キリスト・イエスにあって聖なる者とされ、聖徒として召された方々へ。主はそのすべての人の主であり、私たちの主です。

1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:4 私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも私の神に感謝しています。

1:5 あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。

1:6 キリストについての証しが、あなたがたの中で確かなものとなったからです。

1:7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けることがなく、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待ち望むようになっていました。

1:8 主はあなたがたを最後まで堅く保って、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところがない者としてくださいます。

1:9 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入られたのです。

1:10 さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲

間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。

1:11 私の兄弟たち。実は、あなたがたの間に争いがあると、クロエの家の者から知らされました。

1:12 あなたがたはそれぞれ、「私はパウロにつく」「私はアポロに」「私はケファに」「私はキリストに」と言っているとのことです。

1:13 キリストが分割されたのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によってバプテスマを受けたのですか。

1:14 私は神に感謝しています。私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けませんでした。

1:15 ですから、あなたがたが私の名によってバプテスマを受けたとは、だれも言えないのです。

1:16 もっとも、ステファナの家の者たちにもバプテスマを授けましたが、そのほかにはだれにも授けた覚えはありません。

1:17 キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに宣べ伝えるためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。

パウロは自分の手紙を読んでももらいたい人がどんな人なのかを念頭に置いています。手紙には目的があるからです。また、コリント教会には色々な問題がありましたが、それでも彼らをこのように、良い信仰があるのだと励まし、祝福しています。これが寛容ということですよ。その人の将来を信仰を持って見てあげましょう。そして励まして、

希望を与えて、導きましょう。

問題の多いコリント教会ですが、まずパウロは彼らを誉めています。だれでも、どんな教会でも共同体でも良いところはあるものです。主はそこに目を留めてくださいます。それらは主御自身のみわざだからです。真実であり、また召しであるからです。私たちもそこに目を留めていきましょう。そうすると決心していきます。それは自分自身を見るのも同じです。

そしてパウロは心配なことについて語りません。パウロ、ケファ、キリストは一致しているのに、それでもどちらが自分にとって良いかなどというような議論と、仲間割れが生まれています。このように人は分派を起し易いものです。意識して一致する必要があります。また一致のためには自分の主張を取り下げる必要もあります。割れる時には「どちらが良いか、正しいか？」という議論がほとんどでしょう。しかし、仲間割れしている時点で、良くも正しくもないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

